

『お参りの必需品』

近頃は、お勤めや作法、その意味合いがわからなくなってきたように感じられます。浄土真宗の門徒は朝・夕のお勤め、作法などを通して、仏さまと向き合う事を大切にしてきました。その際に欠かせないものとして「念珠・式章・経本」があります。

それぞれ、お持ちでないものもあるかもしれませんが、浄土真宗の門徒は、この三つをお参りの必需品として、大切にしてきたのです。

皆さんは、この三つ、それぞれの謂れをご存知でしょうか？

【念珠】：念珠は数珠とも言います。元来、数珠はお念仏の数を数えるための道具として用いられていましたが、時代が移り、浄土真宗では、仏さまに対する尊敬を表す、お参りの際の必需品となりました。

蓮如上人は『御文章』の中で「この頃は念珠一連も持つ人もなく、それは、仏さまを手づかみにしているようなものだ」と嘆いておられます。

【式章】：その昔、仏前に座る際、着物の上から肩衣※かたぎぬを身に着けていました。当時、肩衣の着用は、最高の敬意を表す正装でした。それが昭和七（一九三二）年に、その肩衣を簡略化した「式章」が制定され、それ以降、式章は性別に関わりなく真宗門徒の正装となりました。お参りの際は服装を整え、念珠を持ち、式章を着用し、威儀を正してお参り致しましょう。

【経本】：世間一般では、お経を読むのは僧侶の役割と思われているようですが、僧侶も門徒も、一人ひとりが自ら声に出し、お勤めをするところに大切な意義があるのです。

経本には「正信偈」「讚仏偈」「重誓偈」「十二礼」「仏説阿弥陀経」のお勤めや「御文章」も載せられています。是非、様々なお勤めに親しんでいただきたいと思えます。また、お勤めは一人でするのも有り難いですが、声を揃え、大勢でなされるお勤めの響きには、また格別な趣があります。

「念珠・式章・経本」これらは、仏さまに関わる大切な道具ですので、「直に畳や床に置かない」「トイレに行く際、式章は外してから行く」など、仏さまへのお敬いの気持ちの形に表し、お参りさせていただきましょう。

※肩衣：庶民が着た丈の短い袖無しの上着、袴かみしもの上着部分。正装の一種。